

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	301	4年	前期	看護学科	必修	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing	30	2
担当教員								
田中 美延里	近藤 亨子							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
○	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
○	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
公衆衛生看護の理念と歴史、主要概念、活動方法について、自治体保健師の活動事例を通して学ぶ。また、労働者を取り巻く職場環境の変化と健康課題を理解し、労働衛生管理に基づく産業保健師の活動方法を学ぶ。								
到達目標（授業目標）								
1 公衆衛生看護の基本（理念・機能）を理解し、対象の捉え方や活動方法の特性を説明できる。								
2 活動事例を通して、公衆衛生看護活動の展開過程を説明できる。								
3 労働者を取り巻く職場環境の変化と健康課題を説明できる。								
4 労働衛生管理に基づく産業保健師の活動方法を、具体例を通して説明できる。								
回 授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	公衆衛生看護の基本：公衆衛生看護の基本理念、公衆衛生看護の機能、基盤となる概念（田中美延里）							
2回	公衆衛生看護の歴史：保健師が取り組む健康課題の変遷（田中美延里）							
3回	公衆衛生看護の歴史：愛媛の自治体保健師の活動事例（田中美延里）							
4回	公衆衛生看護の対象：公衆衛生看護の対象の捉え方、健康の社会的決定要因・環境的決定要因（田中美延里）							

5回	公衆衛生看護の活動方法の特性：公衆衛生看護の方法・技術（田中美延里）
6回	公衆衛生看護の活動方法の特性：公衆衛生看護活動の展開過程（田中美延里）

7回	公衆衛生看護の倫理：公衆衛生看護における倫理的課題（田中美延里）				
8回	グローバル化に対応する公衆衛生看護：多文化共生の地域づくり（田中美延里）				
9回	活動事例の検討：地域アセスメントから事業化へのプロセス(1) 地域の健康づくり活動事例（田中美延里）				
10回	活動事例の検討：地域アセスメントから事業化へのプロセス(2) 脆弱性・リスクをもった人々への活動事例（田中美延里）				
11回	産業保健の概要：産業保健の目的・歴史、行政体系・法律、労働安全衛生体制、労働者の健康と労働災害の現状、有害要因と健康障害（近藤亨子）				
12回	産業保健師の歴史・定義、産業保健における保健師の役割と健康支援（近藤亨子）				
13回	労働衛生管理の概要：作業環境管理と作業管理の概要（近藤亨子）				
14回	働く女性の健康管理、治療と職業生活の両立支援、過重労働対策、中小企業における健康支援（近藤亨子）				
15回	まとめ：講義の要点整理（田中美延里）				
16回					
17回					
18回					
19回					
20回					
21回					
22回					
23回					
24回					
25回					
26回					
27回					
28回					
29回					
30回					
成績評価方法及び基準					
筆記試験（40％）、レポート（50％）、グループ学習への参加態度（10％）。トータル60点以上を合格とする。					
教科書	麻原きよみ編「公衆衛生看護学原論（公衆衛生看護学テキスト1）第2版」（医歯薬出版） 佐伯和子編「公衆衛生看護の方法と技術（公衆衛生看護学テキスト2）第2版」（医歯薬出版） 岡本玲子編「公衆衛生看護活動Ⅰ（公衆衛生看護学テキスト3）第2版」（医歯薬出版） 荒木田美香子編「公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健（公衆衛生看護学テキスト4）2023年版」（医歯薬出版）				
参考図書等	厚生労働統計協会「国民衛生の動向・厚生指標2022/2023」（厚生労働統計協会） 星旦二・麻原きよみ編「これからの保健医療福祉行政論 第3版」（日本看護協会出版会） 岡本玲子編「地域の強みを高める公衆衛生看護技術」（医歯薬出版）				
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）					
授業内容を地域社会の現状や課題と関連付けてふりかえることを重視する。					
関連科目					
前科目	208 基礎看護学実習Ⅰ	231 地域看護学概論	234 地域アセスメント	235 地域看護学方法論	236 地域看護学実習
後科目	302 公衆衛生看護学方法論	246 看護管理学Ⅱ	304 公衆衛生看護学実習	303 公衆衛生看護特論	
実務家教員					
保健師（行政機関）	田中 美延里				
保健師（職域保健）	近藤 亨子				
備考	専門基礎科目の「社会の仕組みと健康」科目群、専門科目の家族看護論、健康教育論、災害看護学Ⅱと関連している。				